キャンドルのつどい

概　要		キャンドルの柔らかな光がつくり出す厳粛で落ち着いた雰囲気の中で、これまでの活動を静かに振り返らせるとともに、仲間とのつながりを深めさせる。また、室内で実施するため、天候に左右されずに活動できる。
ねらいとして 考えられること		① 仲間と一緒に活動を楽しむことを通して、親睦を深めることができる。 ② 役割分担し互いに協力しながら活動を最後までやり遂げることができる。 ③ 出し物や演出を工夫して、創造性や表現力を養うことができる。 ④ キャンドルの光がつくり出す厳粛な雰囲気の中で、これまでの活動を静かに振り返ることができる。 ⑤ 活動に使用する用具を丁寧に扱い、物を大切にする態度を身につけることができる。
対　象		幼児から
人　数		レクリエーション室80名程度、プレイホール240名程度
場　所		プレイホール、レクリエーション室
時　間		1時間～2時間程度
指導員		自主活動
活動時期		通年
経　費		ろうそく代金（1本あたり）　○大 200 円　○中 200 円　○小 10 円
事前に準備確認するもの		救急用具、ごみ袋　　第2部に使う道具およびBGM等
引率者の役割	打合せ	① 引率者は事前に所員から活動内容や進行について説明を受ける。 ② 役割のある参加者を活動開始1時間前に会場へ集合させる。 ③ キャンドルのつどいについての説明を聞かせる。 ④ 衣装や立ち位置、動きを確認させる。 ⑤ プログラムの第1部と第3部をそれぞれ2回ずつリハーサルさせる。
	活動前	① 参加者にトイレを済ませるよう指示する。 ② 活動開始5分前までに班ごとに会場へ集合させ、キャンドルを中心に円形に整列させる。 ③ 厳粛な雰囲気を保つため、私語や進行の妨げにならないよう指導する。 ④ 参加者にろうそく立てを配布する。
	活動中	① 神の子が参加者に分火する際、安全に火を受け渡しできるよう指導する。 ② 参加者が献火する際は、安全に行えるよう指導する。 ③ 献火後、ろうそく立てを回収する。 ④厳粛な雰囲気を保つため、私語や進行の妨げにならないよう指導する。
	活動後	① ろうそくの火が完全に消えていることを確認・回収してバケツに入れる。 ② 床にろうが付着していないか確認し、付着している場合は取り除く。 ③ 会場内にごみや忘れ物がないか確認する。
安全上の留意点		① ろうそくの炎によるやけどや衣服への引火に十分注意させる。 ② 会場内が暗くなるため、参加者同士の接触や転倒が起きないよう、安全な移動を徹底させる。 ③ ろうそく立ては釘を使用しているため、けが防止のため床に置かせない。

その他	【貸出物品】  